

構造家・小堀徹は これからも司令塔

朝倉幸子◎TH-1
illustration:Taco

■日建設計を卒業

東京藝術大学建築科を卒業して、修士は坪井善昭教授の美術研究科。「近現代日本構造史」をまとめるのに3年間没頭した。建築科で非常勤助手をしたので9年間を藝大で過ごした。藝大は絵の上手な人たちだらけ。建築科でも同期には格別優秀な人も多くてそれならば自分の得意な分野の構造をと、決意して助手時代は基礎からの勉強に明け暮れた。いよいよ実業で活かしたいと考え、日建設計を受け「一人ぐらい変わったのもよいかと思ったのでしょう。5名の採用枠を一人増やして取ってくれました」。後に、新入を採用する立場になると、退社することも考慮して1名多く取ったりもしたから「それが私だったということですよ」とジョークを飛ばして笑わせる。

2000年に「さいたまスーパーアリーナ」でJSCA賞を大成建設の細澤治さんと連名で受賞した。斎藤公男先生（本コラム61回に登場）には学生時代から学校を越えて指導をいただいていたが、この建物のファサードの解析で初めて設計を一緒に行い、今も深い親交がある。2008年にはモード学園スパイラルタワーで日建設計の構造の新しい顔を見せるなど、数々の伝説を築いて取締役を最後の職に2018年12月31日付で退任。インタビューは暮れも迫ったころだったが、「この先のことは何も考えていない」と爽やかなお答えに、「さて?…」と覇志堂は笑顔なのでした。

■サッカースタジアム設計の研究

早稲田大学大学院スポーツ科学研究科で1年間学んだ。2018

年修了とは勉強心は衰えることがない。「トップスポーツマネジメントコース」を平田竹男早稲田大学教授の研究室で専攻した。実は中学、高校、大学とピッチに立っていたサッカー少年。サッカーをこよなく愛するからこそ、その研究につながったのでした。

修士論文で、アメリカのスタジアムは、ヨーロッパのスタジアムと比較すると異なる独自のスタイルがあり多彩なのだとして述べている。実際にバルセロナのホームスタジアム「CAMP NOU」の改修設計に関与し、【単なるスポーツ施設ではなく、市民の空間、パブリックスペースと見なして開放を具体的な形にして】コンペを勝った。これが「NOU CAMP NOUから見た米国MLSスタジアム設計思想の変遷についての研究」につながったと書かれている。実地調査によって、コンセプトの「開放、熱狂、改修・増築」の視点で整理し、MLSスタジアムの変遷を論文にしたのです。

■ジャズ&カード&ゴルフ

幼い頃から続けたピアノの腕前は、元部下に聞くと素敵らしいそうだ。サックスの亀井忠夫社長とジャズセッションをしていた時期もあったそうです。さらに、ときには銀座でジャズシンガーとして登場するとか…。スポーツ万能な小堀さんには音楽という武器もある（いえ、趣味）。明治神宮外苑テニスクラブの設計を機会にテニスも始めたが、今はゴルフに力を入れている。一緒にゴルフをするメンバーは名古屋支店長時代に得た仲間たち。飾らない人柄が魅力の小堀さんには、大好きな今はもう名士と呼ばれる人たちがかけがえのない友人です。

もう一つ、コントラクトブリッジが趣味なのを忘れてはならない。1億人以上の愛好家があり、競技も盛んな知的なカードゲームとか。スケッチブックを片手に世界の街々でブリッジに興じ、時にはサッカー観戦、お天気次第ではゴルフかなと悩み、気が向けばピアノに向かい歌を披露する。そんな小堀さんの姿が見られることでしょう。が、「ブリッジで頑張る」と大御所構造家がいっても、まわりがほっておくはずがありません。

